

氏 名	ナウィット オンサワンチャイ NAWIT ONGSAVANGCHAI
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	工 博 第 2645 号
学位授与の日付	平成 18 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	工 学 研 究 科 建 築 学 専 攻
学位論文題目	A STUDY ON THE FORMATION AND TRANSFORMATION OF SHOPHOUSE IN THE OLD TOWN AREAS. THAILAND (タイ国の旧市街におけるショッパハウスの形成とその変容に関する研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 高 橋 康 夫 教 授 高 田 光 雄 助教授 山 岸 常 人

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、タイにおいて19世紀の初頭から20世紀の半ばにかけて建設され、旧市街における都市型住居の主要な形式となっているショッパハウスを対象として、その形成および空間構成とその変容を明らかにするとともに、ショッパハウスにより構成される街区の特性を解明したものであり、7章からなる。

第1章では、研究の背景、目的と視点、研究の位置付けとその課題を述べている。

第2章では、タイにおけるショッパハウスの形成と発展を明らかにしている。その起源は19世紀初頭に求められ、国王主導による導入と、隣国との貿易・交流を通じた民間からの導入の、大きく2つの経路で理解することができる。とりわけ、1855年におこなわれた政府独占から自由貿易への転換により、バンコクを始め、各地の都市は急激に拡張し、ショッパハウスは、こうしたあらたな拡張の拠点として建設されてきたことを明らかにしている。

第3章では、首都であるバンコクを対象としている。旧市街のラッタナコシン地区へのショッパハウスの導入にあたってはシンガポールの建設方式が参照され、建設に際して都市構成要素である舗装道路、城壁、寺院、宮殿が主要な役割を果たしたことを明らかにしている。

同地区のショッパハウスは、間口が3~4m、奥行20m以内で、一般より小規模である。構成要素に着目すると、中庭の配置とベランダの有無から基本となる5つの空間構成を区別できること、そして空間構成の変容は、後庭の室内化、階段の配置変更、高層化により進行したことを明らかにしている。

第4章では、港町であるパタニを対象としている。その旧市街のショッパハウスは、華人により建設されたこと、また旧市街の基本的構成の考察を通じ、道路建設、河川、寺院および市場が、街区の形成とショッパハウスの建設に重要な影響を与えたことを明らかにしている。

構成要素に着目すると、ショッパハウスは「二階建主屋+差掛け」、「二階建主屋+二階建主屋+差掛け」と「二階建主屋+差掛け+二階建主屋+差掛け」の3形式が基本となること、また空間構成の変容は、敷地後部における増築、背後の空地の統合、ならびに建物同士の統合、分割により進行したことを明らかにしている。

第5章では、市場町であるクロンスウォンを対象としている。経済成長とそれに伴う運河網の発展を基礎として運河沿いの市場町クロンスウォンが形成されたこと、ここでも華人が定住することで市場町が成立したこと、クロンスウォンが運河に面してこれと平行に形成され、堀、寺院、精米工場が主要な要素を成すことを明らかにしている。

ショッパハウスの空間構成は、前部は二階建て後部は吹抜けを持つこと、間口については一間3mが一般的であり、その拡張型として4.5m(一間半)と6m(二間)があることを明らかにしている。空間構成の変容は、運河に面する室の増改築と後部吹抜けの増改築により進行したこと、吹抜けの増改築では、吹抜けのバルコニー化、バルコニー+居室化、居室化が見られることを明らかにした。

第6章では、古都であるアユタヤを対象としている。旧市街のチャオプロム地区には現在、伝統的住居形式、ショッパハ

ウス、新たな店舗併用住宅（現代ショップハウス）が併存しているが、ショップハウスと現代ショップハウスは新たな居住形式として王室財産局によって導入されたこと、街区においては街路に沿って外周を巡るショップハウスからなる「おもて」と、内部に立地する伝統的居住形式からなる「うら」の、異なる2つの要素で構成されることを明らかにした。

ショップハウスの空間構成は、前部の店舗と後部のサービス・スペースからなる単純な構成であること、また空間構成の変容は下屋と裏屋で増改築が見られ、両者はショップハウス背後の街区内部の空地でおこなわれることを明らかにした。

第7章は、結論であり、本論文で得られた成果について要約している。

論文審査の結果の要旨

本研究は、タイにおいて19世紀の初頭から20世紀の半ばにかけて建設され、旧市街における都市型住居の主要な形式となっているショップハウスを対象として、その形成および空間構成とその変容を明らかにするとともに、ショップハウスにより構成される街区の特性を解明することを目的としている。得られた主な成果は次の通りである。

- (1) タイのショップハウスは土着の建築ではなく、19世紀初頭に行われた自由貿易への政策転換に従い普及した形式であること、また経済成長による都市の拡張拠点の新規建設に際し、都市型店舗併用住宅として供給されたことを明らかにした。
- (2) 街区は一般に、道路に面し外周に建設されたショップハウスと、内部に位置する伝統的形式の住居や他施設で構成されること、またショップハウスは前部に店舗、後部にユーティリティ、上部に生活空間を置く単純な空間構成を基本とすることを明らかにした。
- (3) 空間構成の変容は、中庭の室内化、2室の1室化、高層化などの増改築により行われた。変容過程は、街区ごとに異なるが、共通して始めに水平方向に拡張し、奥行方向に増改築が進行する。また、増改築に伴って街区内部で空地が侵食、私有化されることを明らかにした。
- (4) ショップハウスの形成、空間構成とその変容、およびそれにより構成される街区の特性を考察することを通じて現在のタイの都市空間構成の特徴を理解する手がかりを得ることができ、都市部で一般的となっている店舗併用住宅がショップハウスを起源とすることを明らかにした。さらに都市型住居の原型であるショップハウスの空間構成は、新たな都市型住居モデルを提示する上での指針となることを指摘した。

本論文は、東南アジア住居史、タイにおける都市住居史の観点から、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成18年1月24日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。